

受領表現における“愿意”の使用条件

石井 友美

要旨 本文从概念化者 (conceptualizer) の視点以及和認知対象の関係出发, 探讨领取表现“愿意”的使用条件。先行研究指出“愿意”的特性跟概念化者的意志选择有关。但我们发现“愿意”在某些情况不表示概念化者的意志选择。研究结果显示, 当概念化者身处在领取关系内时, “愿意”表示出对第三者的礼貌; 而当身处在领取关系外时, “愿意”并不表示对第三者的礼貌。在认知模式中, 当概念化者和认知对象有相互关系 (I-mode) 时, “愿意”表示礼貌、牺牲。而当双方没有相互关系 (D-mode) 时, “愿意”表示意志的表明和利益的双方移动。这是同为意志表现的“想”所没有的认知模式。我们可以说这样的特性是领取表现“愿意”的固有特征。

キーワード 愿意 想 視点 認知モデル

1. はじめに

本稿は意志を表す助動詞“愿意”の特性を認知主体の視点と観察対象との関係性に着目し、探るものである。“愿意”の性質について魯晓琨 (1999)、史彤嵐 (2015)、石井 (2016) は主体の意志選択に重点を置く性質を持つと指摘している。また郭晓麟 (2010) では願望を有し、実行するためにそれを自分以外の人間に伝える者を“施加者”、その願望を実際来实现しようと実行する者を“承担者”とし、“愿意”は主体が願望を実際来实现するため行動すること、つまり“承担者”であることが強調された表現だと指摘している。しかし受領表現の“愿意”は異なった様相を見せる。以下の例を参照されたい。

(1) 老板: 我这儿的西瓜很甜。〔うちのスイカは甘いよ。〕

客人: 那, 我想拿最大的。〔じゃあ、一番大きいの頂戴。〕

(1)' 老板: 我这儿的西瓜很甜。〔うちのスイカは甘いよ。〕

客人: 那, # 我愿意拿最大的。

上記の(1)は“老板”が“客人”に対して自分の希望を伝える際に助動詞“想”を用いている。このような要求の意味を表す文脈において“想”は問題なく用いることができる。しかし(1)'から“愿意”は用いることはできないことがわかる。この文脈では“客人”がスイカを購入するという意志選択が行われていること、またお店にある複数のスイカの中

でも一番大きなものを選んでいいるため先行研究で指摘されるような意志選択が動作主の“客人”によってなされている。しかしこの文脈において“愿意”は不適切である。また(1) ’において“拿”という動作を行うのは動作主であるため、動作主は願望の実行者である“承担者”としての機能を担っていることになるが、この文脈において“愿意”を用いることができない。また鲁晓琨(1999)は“愿意”の特徴を“回应选择性”としているため、意志選択以外にも聞き手への返答に関する特徴も指摘している。しかし以下のような受領表現の返答では“愿意”の使用はやや不自然である。

- (2) 老板：我这儿的西瓜很甜。你愿意买吗？〔うちのスイカは甘いよ。買いませんか？〕
客人：那，？ 我愿意拿最大的。〔じゃあ、一番大きいの頂戴。〕

以上から先行研究で指摘される主体の意志選択、“承担者”としての特徴、返答に関する特徴は受領表現の“愿意”の使用条件には当てはまらないようである。また相原(2014)は上述した先行研究の指摘以外にも“愿意”の特徴について「心理的に受け入れる」と指摘している。上記の例では“老板”が“客人”にスイカを買うことを求めており、その要求を受けて“客人”が“我愿意拿最大的”のように返していることから話し手の受け入れる姿勢は見られるが、この文脈に“愿意”は用いることができない。これに対して以下の話し手の心理的な受け入れが見られる例は“愿意”を用いることは可能である。

- (3) 只要能看见你，更大的委屈我也愿意接受。(BCC)
〔あなたに会いさえすれば、より大きな屈辱も私は受け入れる。〕

上記は話し手が“更大的委屈”を心理的に受け入れている。前述した(1) ではスイカという物質的なものを話し手が受け入れ、“愿意”を用いることはできない。上記(3) は“更大的委屈”という精神的なものを話し手が受け入れており、“愿意”を用いることができる。以上から一見すると受領するものが物質的なものであるか、精神的なものであるかが“愿意”の使用条件になっているかのようである。しかし以下のように物質的なものの受け入れを表す文脈に“愿意”を用いることが可能な例がある。

- (4) 区别只是在于某些父母更愿意把收入用于得到孩子，而另一些父母则愿意得到轿车、汽船或高保真度音响设备。(BCC)〔収入を子供のために使いたいか、車や汽船、あるいは高品質オーディオ器などに使いたいかの違いのみだ。〕

(1)において物質的なスイカの受け入れに“愿意”を用いることができなかったのに対して上記(4)は物質的な“轿车、汽船或高保真度音响设备”の受け入れを表しているにもかかわ

らず“愿意”を用いることが可能である。以上のことから本稿は“愿意”は受け入れるものが精神的なものであれ、物質的なものであれ、ある一定の条件を満たせば使用が可能となると考える。本稿ではその条件について受領によって生じる認知対象の移動に対する認知主体の視点と認知主体と認知対象の関係性に着目し、分析を進めていく。

2. 受領表現と視点

“愿意”と受領表現の分析に入る前に本稿における受領表現と認知主体の視点について説明していきたい。まず受領表現であるが、本稿では受領表現を利益や被害などの物質、事象が動作主に移動する表現とする。また受領関係を観察する者を認知主体とし、実際に物質や事象を受け取る動作主とは区別する。さらにある物質、事象が所有者から動作主に移動する様子を認知対象と表す。以下、具体的な例を見ていく。

(5) 中国改革开放 10 多年，经济发展了，人民得到了实惠。(BCC)〔中国の改革開放は 10 年あまりで経済が発展し、人民は実利を獲得した。〕

上記の例の“得到”は受領を表わす動詞であり、認知対象は“实惠”の移動である。“实惠”が認知主体かつ動作主である“人民”に向かっている。この例においては受領関係を観察する認知主体と実際に受領する動作主が同じである。このような受領を表わす動詞は助動詞とも共起することができる。助動詞が用いられた受領表現は厳密にいうと物質、事象が認知主体もしくは動作主に向かう以前のことを表わしているが、認知主体の意識においてこれらが動作主に向けられている点で本稿では助動詞と共起したものも受領表現として扱う。また以下のような条件文、仮定文、疑問文、否定文は本稿では取り扱わないこととする。

(6) 如果你愿意接受我的忠告，你们最好还不要往东走，你们可以直接往前走，这样至少还有很长的一段距离可以在森林的掩蔽之下。(BCC)〔わたしの忠告を受け入れるのなら、あなたたちは東へは行かない方がよい。このまままっすぐ進むといい。そうすれば森林を隠れ蓑にしてある程度の長い距離を進むことができる。〕

(7) 你愿意得到什么，就得到什么。

〔願い通りのものを手に入れることができる。〕

(8) 你跟我们在一起会比较安全，你愿意接受我们的帮助吗？(BCC)

〔私たちと一緒にいると安全だ。私たちの助けを求めますか。〕

(9) 她挣扎着，非常愤怒，不愿意接受他的道歉。(BCC)

〔彼女はもがき、激怒して、彼の謝罪を受け入れようとしなかった。〕

(6) (7) は仮定文、条件文であるが、これらの文は必要十分条件が関係し、通常を受領表現とは異なるため扱わない。また (8) (9) の疑問文、否定文も受領関係における認知主体の視点、認知対象の移動がそれぞれの文機能により通常のものとは異なるため扱わない。

次に視点について見ていく。本稿は“愿意”の受領表現における性質を探る上で認知主体の視点に着目し、分析を進めていく。以下の例を参照されたい。

(10) 我更愿意获得纯真的爱情，即使必须付出贫困、坎坷、磨难的代价。(BCC)

〔私は純粋な愛を得たい。たとえ貧しく、不遇で苦難の対価を払おうとも。〕

(11) 学生写过作文之后，愿意得到别人的好评。(BCC)

〔学生は作文をした後、他の人の高評価を求めようとする。〕

上記の (10) は認知主体が受領関係の「内」、つまりオンステージにいる表現である。

このような場合、目的語に位置する認知対象を受領するのは観察者でもあり、かつ動作主でもある認知主体である。(11) は認知主体が受領関係の「外」、つまりオフステージにいる表現である。この場合、目的語に位置する認知対象を受領するのは動作主であり、認知主体はその様子を外から観察することになる。このように受領表現は認知主体の位置が受領関係の「内」にあるか「外」にあるかで認知対象の受領先が異なる。本稿は受領によって生じる認知主体の心理的な特徴を探るため認知主体が受領関係の「内」にいるか「外」にいるかを区別して分析していきたい。

3. 受領表現における“愿意”

本章では“愿意”が用いられた文において認知主体がどこの位置から観察するのかを考察し、そこに見られる使用条件を探っていく。まず最初に認知主体が動作主の位置から、つまり受領関係の「内」にいる場合の“愿意”の例を見ていく。

(12) 但对于想给自己打电话的朋友，肖剑婉言谢绝：“打电话的时候我可能在睡觉，我能睡着不容易，因为腿时刻都在钻心地疼。不接电话我会遗憾，但起来接的话就很难再睡着了。所以发短信吧，我很愿意收到短信。” (BCC) 〔しかし自分に電話をくれる友達に対しては肖剑はやんわりと断った。「電話をくれる時は寝ている可能性があります。私は眠りにつくのは簡単ではありません。足が絶えず身を削られるように痛むからです。電話に出られないことは残念です。でも起きて電話に出ると再び眠りにつくのが難しくなります。ショー

トメールにしましょう。私はショートメールなら喜んで受け取ります。」]

(13) “我很喜欢这个本子，它打动了我！可有些地方还要改一改。往往很多文学剧本不符合组织舞台动作的要求。”“我当然愿意得到指点，更愿意听听你的意见。”(BCC) [「この台本がとても好きです。感動しました。しかしいくつか直すべきところがあります。文学の台本は舞台の要求には合わない場合が多いのです。」「もちろん指摘を受け入れたいですし、ご意見もぜひ聞かせていただきたいです。」]

上記の(12)は認知主体と動作主の“我”が聞き手に対してショートメールを出すことを要求する文である。“我”がショートメールを受領することにより、聞き手の連絡を取りたいという要望に応える形になる。これは言い換えると“我”が聞き手の要望に配慮した表現であるということが言える。また(13)も指摘や意見を受け入れることで聞き手の面子を守ることになり、認知主体が聞き手に対して配慮を向けているということがわかる。さらに以下の例を参照されたい。

(14) 为了消消这位好老人家的气起见，我也愿意领受他的任何重罚。(BCC) [この善良な老人の怒りを和らげることができるなら、彼からの如何なる重い罰も引き受けたい。]

上記の例は認知主体と動作主の“我”が“重罰”を受けることにより、“老人家”の利益に配慮し、“我”は“重罰”を受けるという負担を抱えることになる。このように愿意”は認知主体と動作主の視点が一致した文脈では認知主体が聞き手や第3者の利益に配慮し、時には認知主体が負担を抱える文脈で用いられることがわかる。以下の例も同様の文脈で用いられている。

(15) “刚才我许的愿，要是将来食言，愿意领受 十倍以上的惩罚，悠悠此心，人神共鉴！”(BCC) [先ほどの私の願掛けがもし将来、約束を守らなかったら、喜んで十倍以上の罰を受けます。悠々たるわが心、神と人と知る。]

(16) 我不知道应该感谢还是责怪这位“家长”，他显然是位很了解我们学校管理情况的“家长”。我很不理解为什么不开诚布公的和我谈，那样我更愿意接受 、交流、探讨他所提出的问题。(BCC) [この「保護者」に感謝すべきか、責めるべきかはわからないが、彼は明かに私たちの学校の管理状況を把握している「保護者」である。なぜ直接にありのままに私と話さないのか、理解できない。直接話せば、もっと彼の疑問を受け入れ、交流し、議論していくことができるのに。]

次に認知主体と動作主が異なった例、つまり認知主体が受領関係の「外」にいる例を見て

いく。

(17) 由于拆迁越来越困难，政府更愿意将学校土地拿出来出让。房产商愿意得到学校土地。学校用地现在多是好地段，众人瞩目，拆迁简单。今后也不用担心销售问题。(BCC)〔立ち退きがどんどん難しくなっているため、政府は学校の土地を譲りたがっている。不動産屋も学校の土地を得たがっている。学校の土地の多くは立地条件が良く、注目を集めやすく、立ち退きも簡単だ。今後、売れ行きも心配しなくてよい。〕

上記の(17)では動作主が土地を得るという受領を認知主体が受領関係の「外」から観察するものである。前文の“由于拆迁越来越困难，政府更愿意将学校土地拿出来出让”から動作主“房产商”が土地を得るということは“政府”に利益があるということがわかる。また後文の“学校用地现在多是好地段，众人瞩目，拆迁简单。今后也不用担心销售问题”という部分から動作主の“房产商”にとっても利益があるということがわかる。この例においては前述した(12)～(16)のように動作主が負担を抱えることがなく、動作主と第3者の利益が平等である。またこの文脈から「土地を得る」ことは“政府”に対する配慮なのかは判断できなく、「土地を得る」というのはあくまでの動作主“房产商”の利益のためである。そのためこの文脈では動作主の“房产商”が自身の利益のため土地を得ることに好んで遂行する、つまり積極的な意志が表れている。さらに以下の例を参照されたい。

(18) 有的长辈尽职尽责，工作认真上进，对后辈也尽心尽力，但有的长辈却只顾自己享受，只愿意享受权利，全不愿意承担义务。(BCC)〔ある年長者は職務や責任を果たし、仕事にまじめに取り組み、後継にも心を尽くす。しかしある年長者は自分のことだけを考え、利益を欲しがり、義務は果たしたがない。〕

(19) 热血男儿，没有不渴望打胜仗的。内心深处，他愿意获得更大的光荣。只有英雄才能赢得更多的幸福。(BCC)〔熱血漢に戦いを望まない者はいない。心の奥深いところで彼はより大きな栄光を求めている。英雄になってこそ多くの幸福を得ることができるのだ。〕

(18)では動作主が一方的に“权利”を求めている。(19)も同様に動作主が一方的に“更大的光荣”を求めている。これらの例は動作主が一方的に意志を表明する文である。この特徴は前述してきた“愿意”の例とは異なっている。前述した(12)～(16)では動作主が第3者に配慮を向けていたり、認知主体自身が負担を抱えていたりなど、第3者に注意が向けられていた。また(17)においては動作主に利益があると同時に受領することによりその利益が第3者にも移動していた。つまり(18)(19)は今まで見てきた例とは異なり動作主が負担を抱えることがなく、また第3者に向けた配慮や利益が存在しない。

以上の分析からわかるように “愿意” の持つ意味は認知主体が「内」にいるか「外」に

いるかで異なる。認知主体が「内」にいる場合、認知対象と密接な繋がりを持ち、認知対象に対して配慮などの注意が向けられる。一方、認知主体が「外」にいる場合、認知主体は観察者であるため認知対象との繋がりが薄くなり、配慮などの注意は向けられない。これが意味するところは“愿意”の持つ意味は認知主体と認知対象の関係性によって変化するということである。そのため“愿意”の持つ意味を分析するにはその関係性をより詳細に分析していく必要がある。次章ではこの関係性について中村（2019）が指摘する認知モードを用いてさらに詳しく分析を進めていく。その際には同じ意志表現の“想”と比較し、“愿意”に見られる特徴が意志表現全体のものであるか、“愿意”特有のものであるか明らかにしていく。

4. 受領表現と認知モード

4. 1 IモードとDモード

本章では中村（2019）が提唱する認知モデルのIモード、Dモードを用いて前述した“愿意”の性質を説明していく。その際に同じ意志表現“想”との違いを対比させながら分析を進めていく。中村（2019）は認知主体が事態の参与体であり、「直接的な経験」である認知モデルをIモード、認知主体が事態の外から眺める認知モデルをDモードとしている。以下の図を参照されたい。

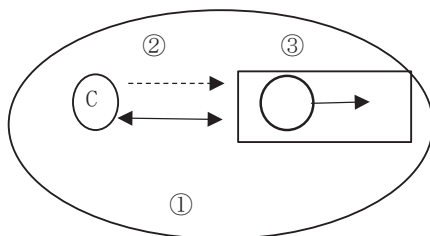


図 1

上記の図 1 は I モードの図である。C は認知主体である。①の両矢印は認知主体と対象のインタラクション、②の点線矢印は認知プロセス、③の四角および中の円と矢印は認知像である。「太陽が昇る」という例で説明していく。①のインタラクションは認知像の太陽が上昇することに伴い地球上の認知主体 C の視点も上昇し、両者が双方向に影響し合っている。この双方向の影響を中村（2019）ではインタラクションと表している。②は認知主体の太陽の上昇を追う視点の移動を表している。③は太陽が上昇する様子である。次に D モードについて見ていく。

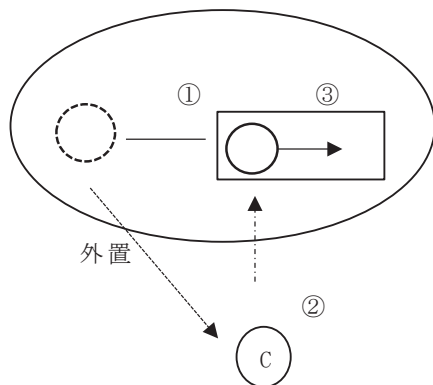


図 2

上記の図はDモードの図である。先ほどと同様にCは認知主体である。Iモードと異なる点は認知の場から認知主体Cが外に出て、あたかも外から客観的に眺める視点をとるところである1)。中村（2019）ではこの認知主体をステージの「外」に置くことを外置と表している。Dモードは認知主体が外置されているため対象との直接的なインタラクションは存在しないかのようなのである。①のインタラクションは認知主体ではなく、点線の円で表される文中の動作主と認知対象の間に生じている。そしてこの状態を認知主体がオフステージから観察している。この認知像の観察が認知プロセスの②に当たる。このようにIモードとDモードの大きな違いは認知主体が自身の位置をどこに想定しているかということと、その認識によって生じるインタラクションと認知対象との関係性に現れる。以下、中村（2019）の挙げる例を用いて、Iモード、Dモードの違いをさらに詳しく見ていきたい。以下は中村（2019）が挙げるIモードの例である。

(20) 君子ヒョウ変

「ワシの眼鏡知らんか」（私に）

「オレやオレや」（友人に）

「ボクがやります」（義兄に）

「ワタクシの方からお伺いします」（上司に）

これ、ぜーぶん、一人の男のせりふ。よくまあ、器用に変えられますこと。

（中村 2019 : 46）

上記の例はすべて認知主体がオンステージにあると想定しており、認知主体の呼称が対話相手との関係性により変化している。つまり認知主体と対話相手の間にインタラクションが生じており、対話相手との関係性で呼び方が変化している。さらに中村（2019）はベル

ク（1994）の指摘する日本語の「寒い！」が I モードであると指摘している。詳しく説明するとベルク（1994）では「寒い」という表現はフランス語では認知主体自身が寒く感じている場合の “J’ ai froid” と天候が寒い場合の “il fait froid” で表現が異なるが、日本語の「寒い！」はこの両方を兼ねている。日本語の「寒い！」という発話は認知主体自身が寒いと感じることと天候（状況）が寒いことが相互に影響し合っている。つまり日本語の「寒い！」は認知主体と状況が不可分である I モードであり、認知主体と状況の間にインタラクションが生じている。次に D モードの例を見ていきたい。中村（2019）では主語が明示された “I’ m cold” や “It’ s cold” は認知主体が外の視点から分析的に見たりレポートであり D モードであると指摘している。図 2 を用いて説明すると認知主体 C はオフステージにおり、点線の円は “I” などの認知主体から分裂した疑似自己である。この疑似自己が寒さを感じている様子を認知主体 C が外から観察している。これらの表現は報告調であるため、認知主体は外から観察し、疑似自己としての “I” の感覚や天候の寒さを描写している。先ほど挙げた I モードの「寒い！」とは異なり認知主体と認知対象（気候などの状況）の間の直接的なインタラクションは見られない。以上から本稿では I モードと D モードの違いを以下のように定める。

I モードは認知主体と認知対象の関係性が不可分であり、その間にインタラクションが生じる。D モードは認知主体がオフステージに位置し、認知対象と距離を置いており、またこの両者の間に直接的なインタラクションは存在しない。

次節では上記の認知モードの違いを元に受領表現における“愿意”“想”の性質を見ていきたい。

4. 2 受領表現と I モード

本節では前節で説明したインタラクションを元に受領表現における“愿意”の I モードの特徴を見ていき、同じ意志表現“想”と比較することで“愿意”の特性を明らかにしていく。まず“愿意”の特徴を見ていく。前節で挙げた図と例を再掲して説明する。

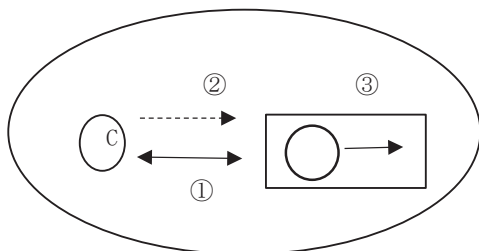


図 3

(12)′ 但对于想给自己打电话的朋友，肖剑婉言谢绝：“打电话的时候我可能在睡觉，我能

睡着不容易，因为腿时刻都在钻心地疼。不接电话我会遗憾，但起来接的话就很难再睡着了。所以发短信吧，我很愿意收到短信。”（BCC）

上記の例は“我”が連絡を取りたいとする聞き手の要望を受け入れ、聞き手に対して配慮を向けている。これは図を用いて説明すると認知主体Cが“我”、認知対象がショートメールの聞き手から認知主体への移動である。認知主体から認知対象へは配慮が移動しており、認知対象から認知主体へはショートメールの移動が見られる。つまりこの例においては認知主体と認知対象の間に相互的な影響があり、インタラクションが生じているということになる。さらに以下の例を参照されたい。

(13)′ “我很喜欢这个本子，它打动了！可有些地方还要改一改。往往很多文学剧本不符合组织舞台动作的要求。”“我当然愿意得到指点，更愿意听听你的意见。”（BCC）

上記の例では認知主体“我”が聞き手の指摘を受け入れ、聞き手の面子を守るように配慮している。図を用いて説明すると認知主体が“我”であり、認知対象が聞き手から認知主体に向けた指摘の移動である。認知主体から認知対象へは配慮が向けられており、認知対象から認知主体へは指摘の移動が見られる。つまりこの例においても認知主体と認知対象の間にインタラクションが生じているということになる。以上の例は認知主体がオンライン上において、認知対象との直接的な相互関係、つまりインタラクションが見られる。また認知主体の配慮は認知対象が存在しなければ発生しなく、認知対象のショートメールや指摘の移動は認知主体が存在しないと発生しない。つまり上記の例は認知主体と認知対象が不可分であり、Iモードの特徴を持つと言える。さらに以下の例を参照されたい。

(14)′ 为了消消这位好老人家的气起见，我也愿意领受他的任何重罚。（BCC）〔この善良な老人の怒りを和らげることができるなら、彼からの如何なる重い罰も引き受けたい。〕

上記の例は認知主体“我”からは罪を引き受けるという配慮、認知対象からは罪の移動が行われており、両者は不可分であり、インタラクションが生じていることがわかる。次に“想”の例を挙げ、“愿意”と対比させていきたい。

(21) 当收到你的消息和你的电话自己会好些！不会那么低落！你在干嘛呢！非常非常的想你，想收到你的消息！（BCC）〔あなたの便りや電話があれば元気になる。あんな風に落ち込むことはない。あなたは何をしているの！あなたのことを本当に想っている。あなたの便りがほしいわ。〕

上記の例において認知主体は発話者である。認知対象は聞き手からの便りの移動である。認知主体の発話者は認知対象に対して便りを要求しており、認知対象はその要求に応じて

認知主体へ便りの移動の可能性を認識している。この例においては便りの移動はまだなされていないが、認知対象が認知主体の要望を認識することでこの文が要求的な意味を持つようになる。つまり認知主体は認知対象が存在しなければ要望を出すことができず、また認知対象も認知主体が存在しなければ要求の認識を持つことはできない。このことから両者の間は不可分であり、インタラクションが生じているということがわかる。さらに以下の例を参照されたい。

(22) 卓元声对大哥说：“代我向父亲提出要求，我想离开故园外出独立。”“他一向不曾阻止任何人离开故园。”元声咳嗽一声，“我想领取 一笔津贴。”“那又是另外一回事。”卓元声不语。
(BCC) [卓元声は兄に言った。「私の代わりに父に要求してください。私は故郷を離れ外で独立したい。」「彼は以前からいかなる人が故郷を離れることを阻止したことはない。」元声は咳をして言った。「経済的な援助をしてほしいんだ」「それはまた別の話だ。」卓元声は黙った。]

上記の例の認知主体は“我”、認知対象は援助となるお金の移動である。この例は認知主体が認知対象に対してお金を要求しており、認知対象にはお金が認知主体へ移動する可能性が生じている。この例では後文の“那又是另外一回事”から認知主体の要求は受け入れが難しいことがわかる。この例では現実的にはお金の移動は起こっていないが、この要求の成否の判断があることから聞き手（認知対象）は“想领取 一笔津贴”が認知主体の要求と認識していることが明らかである。言い換えると認知主体は認知対象に対してお金を要求し、認知対象はこの要求を受けて、お金の移動の可能性を認識しているということになる。この例も認知主体の要求は認知対象が存在しなければ発生しなく、また認知対象の要求の認識も認知主体が存在しなければ存在しない。これは認知主体と認知対象の間が不可分であり、インタラクションが生じていると言える。また上記のような“想”のIモードは“愿意”とは異なり認知主体の第3者に向けた配慮は見られなく、認知主体が負担を抱えることはない。

以上、“愿意”と“想”のIモードの特徴を見てきた。まとめると“愿意”はIモードの時には認知主体が認知対象に対して何らかの配慮を有し、“想”はIモードの時には認知主体が認知対象に対して要求を示すということがわかった。

4. 3 受領表現とDモード

次にDモードについて見ていきたい。まず“愿意”の例を見ていく。前述した図と例を再掲する

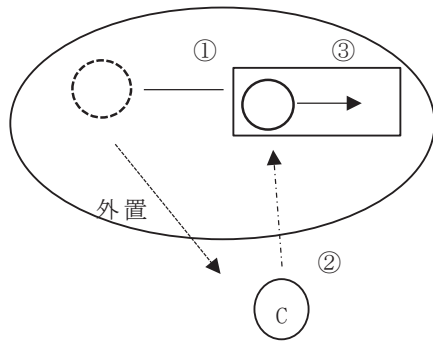


図 4

(17)' 由于拆迁越来越困难,政府更愿意将学校土地拿出来出让。房产商愿意得到学校土地。学校用地现在多是好地段,众人瞩目,拆迁简单。今后也不用担心销售问题。(BCC)

上記(17)'の下線部の例では認知主体Cが外置されている。点線の円は“房产商”であり、認知主体Cはオフステージから点線円の“房产商”が認知対象から“学校土地”を得ようとしているのを観察している。認知対象は政府の意向による学校の土地の移動である。この例では認知主体Cと認知対象の間に直接的なインタラクションは見られない。インタラクションは“房产商”と認知対象の間に生じており、“房产商”は学校の土地という利益を得て、“政府”は“政府更愿意将学校土地拿出来出让”という文から学校の土地を譲るという利益を得ている。つまり両者には双方向の利益の移動があるということがわかる。さらに以下の例を用いて説明していく。

(18)' 有的长辈尽职尽责,工作认真上进,对后辈也尽心尽力,但有的长辈却只顾自己享受,只愿意享受权利,全不愿意承担义务。(BCC)

(19)' 热血男儿,没有不渴望打胜仗的。内心深处,他愿意获得更大的光荣。只有英雄才能赢得更多的幸福。(BCC)

(18)'では認知主体Cは外置され、点線円は“长辈”、認知対象は権利の移動である。権利が移動する様子を認知主体Cはオフステージから観察している。また(19)'も同様に認知主体は外置され、点線円は“他”、認知対象は栄光の移動である。その移動する様子を認知主体Cはオフステージから観察している。これらの例はいずれも認知主体Cと認知対象の間に直接的なインタラクションは存在しない。また前述した(17)'とは異なり、点線円と認知対象の間に利益の移動は見られない。以上からわかるように“愿意”のDモードはIモ

ードとは異なり、聞き手や第3者に向けた配慮が見られない。次に“想”のDモードを見ていきたい。

(23)回来后对妻子谈起儿子的情况。林月琴十分想念北屯，想接到自己身边。不久却听说那家老乡搬离延安，又得知北屯因营养不良病亡的消息，夫妻两人十分悲痛，林月琴一连数日难以安眠。(BCC) [帰った後、妻に息子の状況を話した。林月琴はとても北屯を想っていて、自分の近くに呼び寄せたかった。しかししばらくして、あの農民一家は延安から引っ越したと聞き、さらに北屯が栄養不良のため亡くなったという知らせを聞いた。夫妻は大変悲しみ、林月琴は何日も眠れなかった。]

(24)叶乔波通过录相尽力改进动作，但膝关节内取出碎骨后，还很不适应。她太想拿到明年冬奥会的金牌了，每天练7个小时，4个半小时做膝关节治疗。(BCC) [葉乔波は映像を通して動作をできる限り改善したが、膝関節内の骨を取り出した後、まだ慣れていなかった。彼女は冬のオリンピックで金メダルを獲得したい一心で、毎日7時間練習し、4時間半膝関節の治療をした。]

(25) “我们确实已经很疲惫，但我们很想拿到世界马拉松大奖赛这块金牌。(BCC)

[私たちは確かにもう疲れきっているが、どうしてもマラソン大会の金メダルを獲得したいんだ。]

(23)では認知主体Cは外置されており、点線円は“林月琴”、認知対象は子どもの移動である。点線円“林月琴”と認知対象のインタラクションを認知主体Cはオフステージから観察している。また(24)も同様に認知主体は外置され、点線円“她”と認知対象の金メダルの移動を認知主体がオフステージから観察している。また(25)は認知主体と動作主が一致しているかのように見える。しかし実際は金メダルを獲得するという意志の表明は認知対象に向かっているが、金メダルの移動を表わす認知対象は認知主体に向かっているかはこの文脈からは定かではない。つまり認知主体の金メダルを獲得するという意志の表明を認知対象は要求として捉えておらず、あくまでも一方的な意志の表明であり、両者の間にインタラクションは生じていない。そのためこの例はDモードと言える。

以上、“愿意”“想”のDモードを見てきた。両者を比べると“愿意”のDモードは(17)'のよう認知主体、認知対象の間に双方向的な利益の移動が見られ、(18)' (19)'のようにな一方的な要求を表わす場合が見られた。これらのDモードの例はいずれも第3者に向けた配慮が見られない。“想”のDモードは意志を表明する文脈で用いられ、Iモードとは異なり、認知主体が表明する意志を認知対象が要求とは捉えていない。また上記の(24)(25)は前述した“愿意”のDモードの(18)' (19)'と共通した意味を持つ。具体的に説明すると点線円の動作主が一方的な意志の表明を認知対象に向けている。(18)' (19)'は“愿意”

を“想”に置き換えても大きな意味の違いは生じない。以下の例を参照されたい。

(26) 有的长辈尽职尽责，工作认真上进，对后辈也尽心尽力，但有的长辈却只顾自己享受，只想享受权利，全不愿意承担义务。

(27) 热血男儿，没有不渴望打胜仗的。内心深处，他想获得更大的光荣。只有英雄才能赢得更多的幸福。“祝你一路平安！”

一方、双方向で利益の移動が見られる(17)のような例を“想”に置き換えると意味に変化が生じる。“想”に置き換えることで動作主の積極的な意志が消失する。

(28) 由于拆迁越来越困难，政府更愿意将学校土地拿出来出让。房产商想得到学校土地。学校用地现在多是好地段，众人瞩目，拆迁简单。今后也不用担心销售问题。

5. まとめ

以上の分析を以下のようにまとめる。

表 1

	I モード	D モード	
愿意	配慮	意志の表明	双方向の利益（積極性）
想	要求	意志の表明	

以上の特徴を踏まえて冒頭で挙げた例を再掲したい。

(29) 老板：我这儿的西瓜很甜。〔うちのスイカは甘いよ。〕

客人：那，我想拿最大的。〔じゃあ、一番大きいの頂戴。〕

(29)′ 老板：我这儿的西瓜很甜。〔うちのスイカは甘いよ。〕

客人：那，# 我愿意拿最大的。

上記の例は“想”のみが用いることができる。上記の例は認知主体と認知対象の間にインタラクションを有する I モードである。そのため I モードにおいて要求の意味を持つ“想”を用いることは可能であるが“愿意”は I モードにおいては第 3 者や聞き手に向けた配慮を表すため用いることはできない。上記の文を以下のような文脈に使用すると許容度が上がる。

(30) 老板：剩下了很多西瓜，我只好都扔了。您要吗？〔スイカがたくさん余ってしまった。これじゃ廃棄するしかないよ。買いませんか？〕

客人：这几天我吃腻了西瓜・・・好！我来帮你！我愿意拿最大的。〔ここ何日かスイカを食べていて食べ飽きてるんだ・・・わかったよ！あなたを助けましょう！一番大きいのもらうよ。〕

上記の例は認知主体がスイカを処分したい“老板”に配慮して、多少の犠牲を払いながら“我愿意拿最大的”という発言をしている。この例ではこのような配慮と犠牲が存在するため、同じ文を用いた(1)よりも許容度が上がる。また以下の例を参照されたい。

(4) ‘区别只是在于某些父母更愿意把收入用于得到孩子，而另一些父母则愿意得到轿车、汽船或高保真度音响设备。(BCC)

上記の例は認知主体が受領関係の外から“另一些父母”が“轿车、汽船或高保真度音响设备”を受領する様子を観察している。つまりこの例はDモードであり、“另一些父母”の意志の表明を認知主体が外から観察していることになる。

本稿は認知主体と認知対象のインタラクションが比較的にわかりやすい受領表現に着目して“愿意”の分析を行ってきた。今後は“愿意”の受領表現以外の性質を取り上げ、認知主体の視点と認知対象の関係性について分析を行っていきたい。

〈注〉

1) Dモードは認知主体と実際の動作を行う動作主が異なる場合にとどまらず、認知主体が動作主から自己分裂し、外から観察している場合もDモードとして扱われる。

〈参考文献〉

- 相原茂他 2015. 『中国語類義語辞典』。東京：朝日出版社
- 石井友美 2016. 「意志表現としての“想”と“愿意”」, 『中国語教育』第14号 57-78 頁
- 中村芳久 2019. 『認知文法研究 主観性の言語学』くろしお出版
- ベルク, オギュスタン 1994. 『空間の日本文化』 宮原信 訳 筑摩書房
- 郭晓麟 2010. 〈“希望”和“愿意”的愿望表达模式解析〉, 《云南师范大学学报》第8卷4期 57-62 頁
- 鲁晓琨 1999. 〈现代汉语意愿助动词的意义对比〉, 《第六届国际汉语教学讨论会论文选》528-543 頁
- 史彤嵐 2015. 〈关于“肯”的语义语用特点及与“愿意”的区别〉, 『中国語教育』 第13号 131-146 頁

〈引用文献〉

BCC： BCC 汉语语料库

特に明記されていないものは筆者作例。